

# 亡き人送る 癒やししの調べ

死別による悲嘆（グリーフ）を癒やす効果がある「グリーフケア音楽」を考案し、葬儀で演奏するサーピスを大阪府吹田市の演奏家が始めた。葬儀の雰囲気を変えないよう明るいメロディーは避け、テンポを落とし荘厳な音色にアレンジした曲を演奏する。グリーフケアを目的にした音楽を専門とする演奏家は珍しいという。



荘厳な音色にアレンジした曲を演奏（大阪市内の斎場）

## 大阪の女性 葬儀の場で演奏 音楽療法応用

手掛けているのは同市の豊田佳代子さん（41）で、音楽療法の理論を応用しているのが特徴。電子オルガンを使い、リラクゼーション効果があるとされる風や波などと同じ不規則なリズムや、高い周波数の音などを取り入れた曲を演奏する。豊田さんが作ったオリジナル曲のほか、既存の曲も大幅にアレンジした。

葬儀と言えば「葬送行

進曲」が定番。しかし豊田さんは5年前に亡くなった父の葬儀で仲間が演奏した賛美歌「アメージング・グレイス」を聞いて気持ちが落ち着いたことから「葬儀にも新しい音楽が必要だ」と思い、昨年3月に個人事務所「ジュエルミュージック」を立ち上げた。現在は関西地方の葬儀場で演奏。「悲しい場面でも音楽を活用できることを多くの人に知ってほしい」と話している。

当初は「厳粛な場に音楽はふさわしくない」と否定的意見もあったが、遺族からは「雰囲気に合っている」「気持ちが楽になった」との声が寄せられているという。